

目次

プロローグ	4
-------	---

第1章 宮城の牡蠣とかき研究所

1. 宮城の牡蠣はコスモポリタン	8
2. 宮城ガキの学問上の戸籍	11
3. マガキの生き様をうまく利用した養殖	13
4. 宮城ガキのルーツを探る	17
5. 宮城ガキをもっと食べよう	19
6. 地球環境にやさしい食文化をめざそう	21
7. 世界かき学会の育ての親、かき研究所	22
8. かき研究所設立の祖、今井丈夫先生	24
9. かき研究所の危機と東北大学の動き	26
10. かき研究所再建の恩人、 西澤潤一先生と石田名香雄先生	30
11. 早川二郎理事長誕生と財団運営	33
12. 世界かき学会の芽生え	36
13. 宮城新昌翁とコスモポリタンガキ	41

第2章 世界かき学会の誕生

1. カナダの恩人、Dr. James E. Stewart	44
2. カキに関する国際学術集会開催の決断	46
3. 第1回国際かきシンポジウム (IOS1) の開催	50

第3章 海外における国際かきシンポジウム

1. IOS2 (中国・杭州)	64
2. IOS3 (台湾・台北)	77
3. IOS4 (オーストラリア・ホバート)	89
4. IOS5 (ベトナム・ホーチミン)	108
5. IOS6 (アメリカ・ケープコッド)	128
6. IOS7 (イギリス・バンガー)	169

第4章 世界のカキ養殖

1. 中国	193
2. 台湾	196
3. ベトナム	212
4. マレーシア	229
5. オーストラリア	231
6. 北アメリカ	256
7. フランス	265

第5章 世界かき学会の存在意義と今後のあり方

—「海を生きし、海に生きる」ための知恵を生む—

1. カキを通して海を知り海を生かす	284
2. 地球環境調和型の水産増養殖システム	287

エピローグ	305
-------------	-----

付録

1. 世界かき学会会員構成	312
2. 世界のカキ養殖場	313
3. 索引	330